

みなさんこんにちは、【 T 】です。先日、県南青少年の家で開催された「大人ワンダークラブ野外活動編①」という事業に参加しました。スウェーデントーチでホットサンドとスモア（マシュマロを焼いてクッキーに挟む）作りを楽しみました。様々なテントも用意されており、それぞれの特徴や寝心地も体験。すでに、ホットサンドメーカーとテントがほしくなっているTです（笑）。

さて、親同士の会話でよくあるのが「うちの子〇歳になったのに〜〜〜ができなくて」「周りの子はできるのにうちの子はまだ〜〜〜もできない」という内容ですが、私にも覚えがあります。もしかしたら、保育や学校教育の現場でもあるあるなのではないでしょうか。周りと同じようにできることの同調性による安心感を得るため、何歳頃には何ができているといった、いわゆる発達段階にあてはめて子どもを見ることが多いように思います。

しかし、発達段階から子どもをみることは、本当にその子のことを「みる」ことになっているのでしょうか。

玉川大学教授のママ先生こと大豆生田 啓友（おおまめうだ ひろとも）先生は、日本教育新聞の「個々の『いま、ここ』を受け止める」という記事の中で「発達の仕組みや道筋を理解しておくことは専門性として大切ですが、同時に子どもとかかわる上で発達の枠組み（できた・できない）で子どもを見ることの落とし穴に自覚的であることが必要だ」と述べています。

目の前にいる子どもは、毎日何かを発信し続けています。中には感情を爆発させたり、いわゆる発達段階にそぐわない行動をしたりすることもあるでしょう。その発信されている多くの「何か」を単に発達段階に当てはめて評価し、指導するだけではなく、受け止めそして理解しようとすることも子どもを「見る」ということなのかなと感じました。時にはその発信を、大人も一緒に、周りも巻き込んで楽しめる、そういった雰囲気、子ども達の成長に繋がるのだと思います。

みなさんは今日、子ども達の素敵な行動や場面を幾つ発見しましたか？

子育てに関する悩みを一緒に考えます☆

子育て電話相談「すこやかダイヤル」 0198-27-2134

☆メルマガへのご感想、アドレス変更・配信停止はこちらへ(^\_^)/  
[kosodatem@pref.iwate.jp](mailto:kosodatem@pref.iwate.jp)

★=====★

【発行】岩手県立生涯学習推進センター

【HP】 <http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>

【Facebook】 <https://www.facebook.com/manabinetiwate/>

【Twitter】 <https://twitter.com/manabinetiwate>

★=====★